

This Page Is Inserted by IFW Operations  
and is not a part of the Official Record

## **BEST AVAILABLE IMAGES**

Defective images within this document are accurate representation of  
The original documents submitted by the applicant.

Defects in the images may include (but are not limited to):

- BLACK BORDERS
- TEXT CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES
- FADED TEXT
- ILLEGIBLE TEXT
- SKEWED/SLANTED IMAGES
- COLORED PHOTOS
- BLACK OR VERY BLACK AND WHITE DARK PHOTOS
- GRAY SCALE DOCUMENTS

**IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.**

**As rescanning documents *will not* correct images,  
please do not report the images to the  
Image Problem Mailbox.**

公開実用新案公報

昭53-145865

⑫Int. Cl.<sup>2</sup>

識別記号

⑬日本分類

庁内整理番号

⑭公開 昭和53年(1978)11月16日

B 25 H 7/04

106 E 12

7517-24

G 01 B 5/24 //

76 C 3

6526-33

E 04 G 21/16

86(7) C 31

6612-22

審査請求 未請求

(全 2 頁)

⑮角度測定及び加工の定規

⑯考案者 上守人

富士見市渡戸 3-11-41

⑰実 願 昭52-50677

⑱出 願 人 上守人

富士見市渡戸 3-11-41

⑲出 願 昭52(1977) 4 月21日

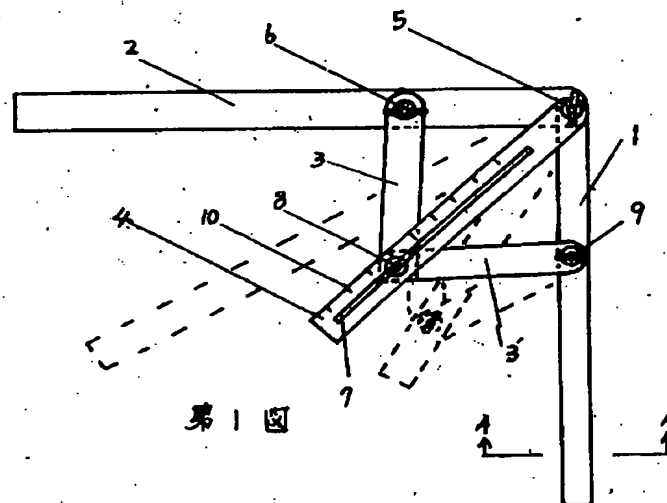
⑳実用新案登録請求の範囲

定着辺と測角辺の交点を回動自在に取り付け、一方角度支持辺の両端間の任意の位置に接合点を設け、角度支持辺の両端間の距離を任意に伸縮自在にし及び固定手段を設け、定着辺と測角辺の任意の位置に角度支持辺の両端を回動自在にそれぞれ取り付けた角度測定及び加工の定規。

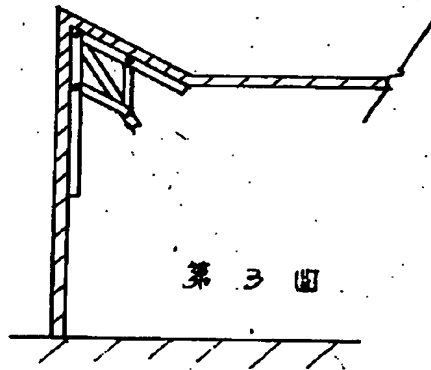
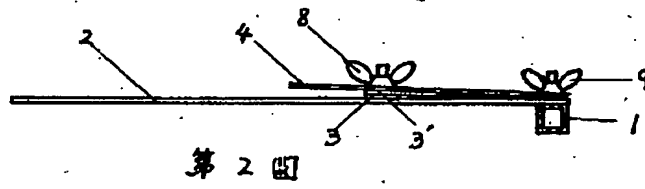
図面の簡単な説明

第1図……平面図、第2図……A-A断面図、第3図……角度測定使用態様図。

1……定着辺、2……測角辺、3、3'……角度支持辺、4……角度固定辺、5……蝶ネジ、6……蝶ネジ、7……溝、8……蝶ネジ、9……蝶ネジ、10……目盛。



第1図





(3,000円)

## 実用新案登録願

適

昭和52年4月21日

特許庁長官

殿

1. 考案の名称 角度測定及び加工の定規

2. 考案者

住所(居所) 埼玉県富士見市渡戸 3-11-41

氏名 上 守 人

3. 実用新案登録出願人

郵便番号

354-□□

住所(居所) 埼玉県富士見市渡戸 3-11-41

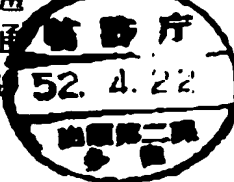
氏名(法人にあっては名称) 上 守 人



4. 添付書類の目録

- (1) 明細書
- (2) 図面
- (3) 願書副本
- (4) (

- 1 通
- 1 通
- 1 通
- 通



方式査 (員)

52 050677

## 明 細 書

### 1. 考案の名称

角度測定及び、加工の定規

### 2. 実用新案登録請求の範囲


定着辺と測角辺の交点を回動自在に取り付け、一方角度支持辺の両端間の任意の位置に接合点を設け、角度支持辺の両端間の距離を任意に伸縮自在にし及び固定手段を設け、定着辺と測角辺の任意の位置に角度支持辺の両端を回動自在にそれぞれ取り付けた角度測定及び加工の定規

### 3. 考案の詳細な説明

時代が進むにつれ世の中の目に写るあらゆるものが、それぞれの職場の人達の知恵により機能、デザイン等、大変な進歩をなし、街を歩いているといかにも楽しい。しかし、それらのすぐれた物を造るにも内面は技術面で大変な苦勞をしているのである。建築界でも例外でなく、色々な変つた形のデザインの仕事が多くなつた。施工者としても時間を永く費やしても凶面通りに施工しなければならぬ。特に化粧板を変形な角度の場所に施

工するとなると、熟練者でも形に合わせて施工するには永い時間を必要とする。従来は角度を写取する自由矩は有つたが定規の2辺の頂点を回動固定したものであつたので角度を写し取つても安定性がなく使用するに不便を感じていた。この自由矩はそのような欠点をなくし安定性のある自由矩にしようとするものである。

次にこの自由矩の構成を一例を用いて説明すると基準となる定着辺1と対辺の測角辺2の交点を蝶ネジ5で回動自在に取り付け、角度支持辺3-3'の中央に接点を設け、回動自在に蝶ネジ8で連結し、3の一端を2の適当な位置に回動自在に2の外辺から3がはみ出ぬように蝶ネジ6で取り付け、3'を1に5から6までの長さの寸法と同じ長さで1の外辺から3'がはみ出さぬように蝶ネジで9に回動自在に取り付ける。又、角度の固定は角度固定辺4に蝶ネジ8が移動可能な巾の溝7を設けたものを5に回動自在に取り付け又3-3'の交点の蝶ネジ8で溝7に取り付け固定する。使用法はまず角度を写し取る 目的の場所に1と2を密



着させると1と2の内角は5を中心に角度に応じて広くなつたり狭くなつたりすると同時に6と9の距離は長くなつたり短くなつたりする。一方8の位置で折れるようになつてゐる角度支持辺3-3'は直線に近くなつたり折れたりする。角度を固定するには8が移動しないようにしなければならない。その役割をするのが角度固定辺4で、4は蝶ネジ8が移動可能な巾の溝7を設け一端を5で固定してあるので8を締め付けると角度が固定する。また自由矩自から角度を出す場合は4の溝7にそつて角度又は勾配等の目盛を付けておき、目的とする角度に8を合わせる。又1を板状にせず第2図のように1の断面を角状等断面に適当な厚さのものを使用すると加工材に丸みが有つても1が材料の辺に密着し安定するので電動溝切、電動丸鋸等使用加工用として使用出来る。

以上のようにすることにより1と2の外辺から支持板3-3'がはみ出さずどんな場所でも使用可能となり用途の広い自由矩である。

#### 4. 図面の簡単な説明

第 1 図…平面図、第 2 図…A—A 断面図、第 3 図…角度測定使用態様図

1…定着辺、2…測角辺、3, 3'…角度支持辺、4…角度固定辺、5…蝶ネジ、6…蝶ネジ、7…溝、8…蝶ネジ、9…蝶ネジ、10…目盛

実用新案登録出願人 上 守 人





